

平成30年度 体力・運動能力調査結果及び分析・対策(松江市立大庭小学校)

平成31年3月25日

(1)児童の体力の現状

- 上体起こしは、低・中学年において、県平均を上回り、動きを持続する力が向上している。
- 長座体前屈は、低・中学年において、県平均を上回り、柔軟性が向上していると判断できる。
- 上記の2項目は、昨年とも同様であり、本校の傾向ともいえる。
- 意識調査において、めあてと振り返りが全国の値を上回っており、本校の学習スタイルが体育科でも定着していると言える。
- 「握力」「反復横跳び」「シャトルラン」「50m走」「立ち幅跳び」「ボール投げ」は、県平均を下回っており、本校の児童は、全体的に体力が低い傾向にある。
- 「シャトルラン」は昨年より改善傾向にあるが県平均を下回っており、持久力に課題がみられる。
- 「握力」「立ち幅跳び」は県平均を大きく下回っており、筋力に課題が見られる。
- 「ソフトボール投げ」、「反復横跳び」については、「タイミングを合わせる」、「自分の体を操作する」といった運動感覚が養われていないことも課題の一つと考えている。
- 意識調査では、「先生の個別指導ができるようになった」の項目が、特に全国、県平均を下回った。教師の体育授業の質の向上を目指すために、研修や教材教具等の環境整備の充実を図る必要がある。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

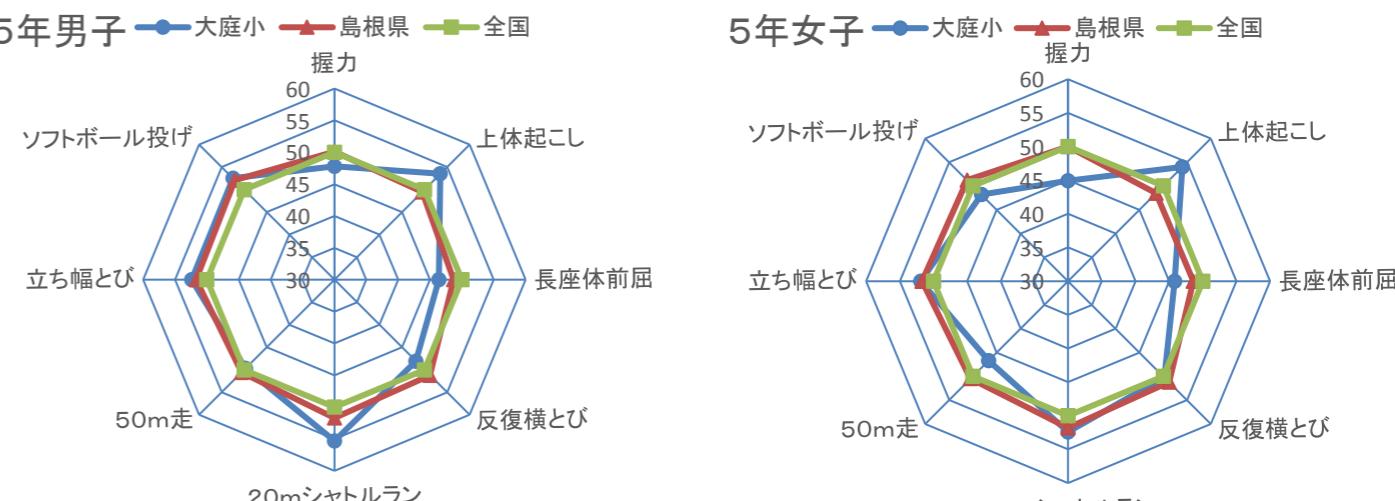
- 「持久力の向上」を目指し、体育学習の導入時に、体力アップにつながるメニュー(五種目歩走・五分間走・縄跳び)の実施に、年間を通して取り組んだ。
- スポーツ委員会と連携して、体を使って遊ぶ全校活動を各学期実施した。
(1学期…全校鬼ごっこ 2学期…鉄棒発表会 3学期…長縄大会)
- 長期休業中に縄跳びカードを配布し、家庭での運動の奨励に努めた。
- 体育の授業や全校活動の取組が、課外における児童の運動への意欲にあまりむずびつかなかった。体力・運動調査の結果をふまえて、児童が楽しみながら、運動の力を高めていくような取組(例:運動チャレンジカードの活用)を推進する。

(3)31年度の取組【対策】

- ①学校における取組
 - ・全校の共通理解のもとで、体育授業で、体力アップにつながるメニューを年間を通して確実に行っていく。特に、持久力や筋力を高めたりする運動や投の運動を意識的に取り入れていく。
 - ・委員会活動との連携を図り、全校での体力づくり活動を計画、実施する。
 - ・児童がめあてをもって取り組むことができるチャレンジカードを作る。
 - ・体育の指導書の購入、指導法の研修を行い、教員に対する支援を行う。
- ②地域や家庭との連携による取組
 - ・家庭でできる運動(トレーニングやストレッチ)を紹介し、「家族で取り組む〇〇週間」を計画して取り組む。特に長期休み等の機会を生かして定期的に実施することで、児童が運動に向かおうとする意欲を高める。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
 - ・体づくりの視点から給食指導を見直し、栄養バランスや残飯量などについて、適宜声掛けや指導を行う。
 - ・バランスのよい朝食摂取や早寝早起きなどの「規則正しい生活習慣の確立」を目指し、アウトメディア習慣や保健だより等と関連させ、保護者への啓発を図る。

調査実施者数(人) 1年(男子36・女子28) 2年(男子45・女子37) 3年(男子36・女子19)
4年(男子31・女子39) 5年(男子31・女子41) 6年(男子29・女子35)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)

